



TITLE:

# 和歌山県田辺湾周辺海域に最近漂着したモダマ(マメ科)の種子

AUTHOR(S):

久保田, 信; 岡村, 親一郎; 湊, 宏; 中西, 弘樹

---

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県田辺湾周辺海域に最近漂着したモダマ(マメ科)の種子. 漂着物学会会報 2004, 9: 2-2

ISSUE DATE:

2004-03-18

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179149>

RIGHT:

© 2004 漂着物学会

## 和歌山県田辺湾周辺海域に最近漂着したモダマ(マメ科)の種子

Seeds of *Entada phaseoloides* (Leguminosae) recently washed ashore at beaches in Tanabe Bay and its vicinities, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信<sup>1</sup>・岡村親一郎<sup>2</sup>・湊 宏<sup>3</sup>・中西弘樹<sup>4</sup>

Shin Kubota<sup>1</sup>, Shin-ichirou Okamura<sup>2</sup>,  
Hiroshi Minato<sup>3</sup>, and Hiroki Nakanishi<sup>4</sup>

- 1 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海459  
京都大学フィールド科学教育研究センター  
海域ステーション瀬戸臨海実験所  
2 〒598-0054 大阪府泉佐野市栄町3番10号  
3 〒649-2333 和歌山県西牟婁郡白浜町中193  
4 〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部

南方では長さ数十mにも達する大形の蔓植物、モダマ *Entada phaseoloides* (L.) Merr. (マメ科) の種子の漂着は、田辺湾周辺の沿岸地域においてはこれまで記録がない (中西 1983, 1999)。モダマの種子は、一見すると平らで円い頁岩性の小石のように見えるので、気づかれないことがあった可能性は否定できないが、その大量漂着もこの海域では記録されてこなかったことから、漂流している個数自体も少ないと推察される (石井 1999; 中西 1999 参照)。対岸の徳島県沿岸では、過去10年余りの間で1個が1970年頃に発見されただけであり (茨木 2003)、これと同様に、和歌山県沿岸でもこれまでNakanishi (1987) による串本町オゴクダ浜からの1個だけの種子の漂着の記録のみであり、田辺湾周辺地域からは何の記録もなかった (榎山・田名瀬、私信)。

(図2,3) 和歌山県白浜町臨海“北浜”へ漂着したモダマの種子 (2方向から撮影)

最近、田辺湾周辺地域からの新記録として、2個のモダマが漂着したので、それらの種子の計測値や発芽と成長などに関する報告をする。

なお、紀伊半島東岸沿岸域への漂着に関しては古い記録があり、1825年に尾鷲浦辺に多数の種子や莢さえもが大量に漂着している (中西 1983)。しかし、それ以降は記録がほとんどない (中西 1999)。

### 1. 南部町千里海岸への漂着

1999年2月21日に、1個の種子が砂浜の波打ち際に打ち上がっているのを岡村が採取した。岡村は2002年7月27日に10cmほど根と芽が出ていたのを偶然に発見し (図1)、すぐに湊へ送付してその後の成長を託した。湊は、温暖な気候の白浜町の自宅の庭で育てたところ、数ヶ月後には高さ数十cmまで成長し多数の葉もつけた。しかし、その年の冬季を越せずに枯死した。2003年12月初旬に植木鉢から掘り出して種皮を回収したところ、半分ほどが残っており、その短径は36mmであった。

この種皮は採取時点の状態よりも収縮し、また、採取時には平らな楕円形であったことを岡村は確認している。このような形態は、南西諸島に本種とともに分布する近似種のヒメモダマではないことを示している。

モダマの種子は海水に長期間浮くことができ、一年間海水に浮かせた後も発芽が可能であることが観察されているので (中西 1984)、今回の発芽も、モダマの種子の生存能力の強靱さの現れを示している。

### 2. 白浜町臨海の通称“北浜”への漂着

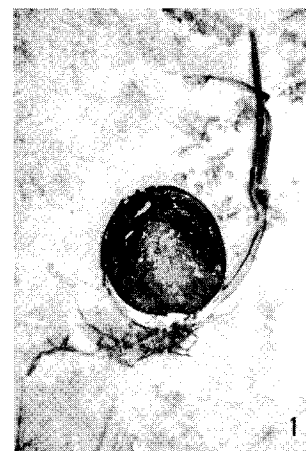
2003年10月29日に、1個の種子が砂浜の満潮線に他のゴミといっしょに打ちあがっているのを久保田が発見した。これを海水に入れると、水面に浮かぶのを確認した。標本は、長径45mm、短径36mm、厚さ15mmで、種皮は黒色を呈する (図2)。本標本は、全体が平らではなく、種子の中央が両側にわずかに高くなっていたが、明瞭には盛り上がりはないのでヒメモダマではなかった (図3)。採取後2ヶ月間ほどよく乾燥させたこのモダマの重量は14.9gであった。石井 (1999) や中西 (1999) がまとめたわが国に漂着するモダマの大きさや重量と比較すると、本標本は、厚みが多少薄く、重量もやや軽いものといえる。

### 謝辞

京都大学瀬戸臨海実験所の田名瀬英朋助手と榎山嘉郎元科学技官の本種の漂着情報に関する私信に感謝致します。

### (引用文献)

- 石井 忠. 1999. 新編 漂着物事典. 380pp. + 11pp. 海鳥社, 福岡市.  
茨木 靖. 2003. 徳島県の漂着種子と果実. どんぶらこ, (6):1-4  
中西弘樹. 1984. 海流散布植物とその分布圏の意義. 月刊地球, 6(2):113-119.  
Nakanishi, H. 1987. Stranded tropical seeds and fruits on the coast of the Japanese mainland. *Micronesica*, 20:201-213.  
中西弘樹. 1990. 海流の贈り物. 254pp. 平凡社, 東京.  
中西弘樹. 1999. 漂着学入門. 211pp. 平凡社, 東京.



(図1) 和歌山県南部町千里海岸へ漂着したモダマの発芽した種子

